

2019 年度 SEC 国内見学会
釧路コールマイン(株)／炭鉱展示館／国際バルク戦略港湾釧路西港
見学会報告

- 日時 2019 年 9 月 26 日（木）～27 日（金）
- 見学先 9/26 釧路コールマイン(株), 鉱山展示館
9/27 国際バルク戦略港湾釧路西港, SGET 鶴野メガソーラー
- 参加者 株安藤・間他、会員 9 社、計 18 名



□9 月 26 日（木）

秋晴れのもと、たんちょう釧路空港に集合し、最初の見学先である釧路コールマイン(株)に向かいました。同社の前身は 1920 年創業の太平洋炭鉱で、日本で唯一現役の坑内掘り炭鉱を持つ釧路市の石炭生産会社です。現在は、釧路経済界が出資・運営する市民炭鉱で、年間 50 万トン前後の石炭を生産するほか、海外の研修生を受け入れた技術移転事業も行なっています。菅原管理部長より同社の概況説明を受けた後、坑道や坑内の設備、坑口、選炭工場などを見学させていただきました。



釧路コールマイン(株)にて

次に、旧太平洋炭礦 炭鉱展示館へ移動しました。入り口の日本一の6トンの大塊炭の前を通り中へ入り、釧路コールマイン㈱の栗林説明員から坑内パノラマ等の説明を受けた後、地下フロアに降りました。地上からは想像できない広さの模擬坑道が設けられており、実際に使用されていた種々の採炭機械の実物が展示されていました。釧路コールマイン㈱での見学と合わせ、採炭作業の迫力が十二分に感じられました。



地上階のパノラマ展示



模擬坑道の展示（左：工程説明パネル 右：ドラムカッター）



模擬坑道の展示（左：コンテナスマイナー 右：シャトルカー）



炭鉱展示館前にて

□9月27日（金）

二日目も、良く晴れたお天気の下、国際バルク戦略港湾である釧路港へ向かいました。国際バルク戦略港湾は、国土交通省が穀物や鉄鉱石、石炭などを安定的に大量輸入する拠点として全国10カ所を選定しているもので、釧路港は乳牛などのエサとなるトウモロコシなどの穀物分野を扱う港湾として選定されています。釧路西港第2埠頭では穀物取扱の効率化を図るべく、全長300mのパナマックス船(7万DWT)を係留可能な栈橋を新設しています。

今回の見学では釧路西港開発埠頭㈱の鈴木社長のご案内で、新設された栈橋および本年導入した飼料用穀物を荷役・搬送するアンローダー等を見学しました。スケジュールの関係で荷役の現場を見ることはできませんでしたが、300m超の新設栈橋や800t/hの穀物荷上げを可能とするアンローダーは巨大で、北海道の畜産を支える同港の規模感を感じました。



空から見た釧路港国際物流ターミナル（釧路西港開発埠頭㈱資料より）



アンローダー



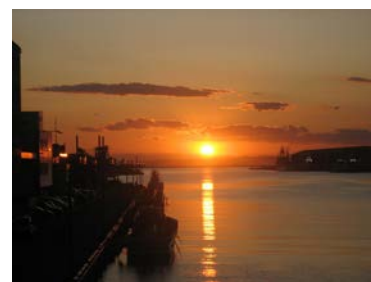
左：鈴木社長（中央）を囲んで集合写真 右上：アンローダー先端 右下：バケット

釧路西港を後にし、スパークスグループの SGET 鶴野メガソーラーへ向かい車窓から見学しました。同メガソーラーは、敷地面積 47.3ha、出力 21.7MW と釧路で有数の規模を誇ります。釧路は、日射条件が良いことと、冷涼な気候のため、メガソーラーに適した土地柄とされています。



左：車窓より 右：発電所全景（SPARX Green Energy & Technology 社ホームページより）

お忙しい中にご対応くださいました釧路コールマイン(株)・菅原部長、敦賀班長、釧路西港開発埠頭(株)・鈴木社長、佐久間係長の皆様に改めて御礼申し上げます。また、今回の見学会は、JFE エンジニアリング(株)北海道支店松山様、岡内道東営業所長にアレンジしていただきました。ここに記して御礼申し上げます。



バリ、マニラと並び世界三大夕陽の釧路の夕陽